

## 第 577 回：自己紹介 (MS)

はじめまして。火曜日の 12:00 から 15:00 までのラーニングアドバイザー (LA) を担当します、修士課程 1 年の MS と申します。大学院では、中世イングランドの詩人であるジェフリー・チョーサーの作品を題材に、中英語 (1150-1500 年) 後期における二人称代名詞の用法について研究しています。私の研究は「歴史語用論」という学問分野に属します。2 年生のときに、英語史の授業で知り合った先生から、その分野の研究会 (HiSoPra\*研究会) に招待されたことが研究を始めたきっかけでした。将来の夢は、神戸市外国語大学で教員として働くことです。

私が LA を志望した動機は、この活動を通して外大に恩返しをしたかったからです。4 年間の外大での生活で得た知識や経験を還元できる場所がないか探していたところ、LA を見つけました。みなさんのお役に立てるように頑張りますので、よろしく願いいたします。

初回ということで、私が指導教官からいただいたありがたいお言葉をいくつかパラフレーズしながらご紹介しようと思います。

一つ目は「他人のアタマはタダで使える」です。ここでの「アタマ」は、比喩的に「個人の知識や経験」を指します。もちろん、外大生のみなさんは、学生として卒業に必要な単位を取得することが求

められています。ですが、大学生活はそれだけではありません。気の置けない友人、その道のプロである外大の先生方、そして私たち LA の大学院生といった、様々な人に囲まれています。彼らの「アタマ」を使ってみてはいかがでしょうか。今までになかった発見があるかもしれません。もしかすると、将来の進路選択に影響を与えるような出会いがあるかもしれません。外大生として、「行動する国際人」としての一步を踏み出してみてもいかがでしょうか。

二つ目に「しんどいときはしんどいと言うこと」です。助けを求めることは悪いことではありません。中世フランス文学の叙事詩の『ローランの歌』には、次のようなエピソードがあります。カール大帝の甥であるローラン伯は、親友のオリヴィエ伯らと共に、殿軍を率いてフランスに帰還する途中でした。彼らとはある人物の裏切りによって、敵軍から奇襲を受けてしまいます。応戦するものの、多勢に無勢で、次第に彼らは窮地に立たされてしまいます。そこで「賢明な」(“sage”) オリヴィエはローランに角笛を吹き、カール大帝がいる本隊の注意を引くことを提案します。ですが、「勇敢な」(“proz”) ローランはそれを不名誉なこととして拒否します。戦況は悪化する一方でした。最終的にローランは角笛を吹

### 第 577 回：自己紹介（MS）

いたのですが、援軍が到着したときには、既に全員が戦死していました。無論、みなさんは助けを求められなかったことで、このような目にあうことはないはずです。ですが、「しんどい」と言える環境を整えておくことは大切です。そこで、主に学習面での相談先として、LA を候補に入れていただければと思っています。それではまた。